

○通知表の取扱について

本校では、年間3回、学期の終わりに通知表を渡しております。学習評価（観点別学習状況及び評定）は、1学期・2学期・学年末のものとし、この通知表は、一人ひとりの生徒の学習や学校生活の様子や結果をお知らせしています。

通知表は、「子どもを伸ばすため」のもので、その時点での子どもの状況を保護者に知らせることが中心になりますが、進歩の状況や良さを中心にとらえ、子どもに意欲を持たせ、今後の目標を持てるような視点や励ましを伝えていくことが大切になります。

さらに、通知表は、「子ども自身が自分を見つめるため」のものであります。子どもにとっては、自分自身を振り返る自己評価の機会となり、自分をより高めるための方策を考える一助となりうるものです。

以上のように、子どもの個性や長所を伸ばすために通知表を役立てていただければと考えます。

○通知表の見方について

1. 学習の状況

(1) 「観点別学習状況」は、中学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価（絶対評価）し、A、B、Cの3段階で表しています。

A…「十分満足できるもの」

B…「おおむね満足できるもの」

C…「努力を要するもの」

(2) 「評定」は、各教科別に中学校学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を総括的に評価（絶対評価）し、5、4、3、2、1の5段階で表しています。

5…「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」

4…「十分満足できると判断されるもの」

3…「おおむね満足できると判断されるもの」

2…「努力を要すると判断されるもの」

1…「一層努力を要すると判断されるもの」

(3) 観点別学習状況の評価の評定への総括においては、4観点の重点の置き方にかかわらず、4観点の評価が「A、A、A、A」であれば「4」又は「5」、「B、B、B、B」であれば「3」、「C、C、C、C」であれば「2」又は「1」になります（平成14年2月、国立教育政策研究所教育課程研究センターより抜粋）。なお、国語は5つの観点があります。

(4) 学年末の欄は、一年間を総合して学習を評価しています。

(5) 「総合的な学習の時間」は、その活動内容と評価を文章で表します。

2. 特別活動や部活動の記録

各項目については主な事実と活動について記載しています。